

新規育種技術（NBTs）の規制状況：パラグアイからの洞察

### 文献情報

論文名： Regulatory landscape for new breeding techniques (NBTs): insights from Paraguay.

著者： Danilo Fernández Ríos, Nidia Benítez Candia, María Cristina Soerensen, María Florencia Goberna and Andrea Alejandra Arrúa

ジャーナル： Front. Bioeng. Biotechnol., (2024) Volume 12 - 2024

<https://doi.org/10.3389/fbioe.2024.1332851>

### 概要

新たな育種技術（NBTs）の規制は、近年大きな注目と議論を集めている。このような新たな技術は、作物の生産性に大きな影響を与え、さまざまな世界的課題に対処する可能性を秘めているため、世界各国において、その利用を規制・監督する最善の方法に取り組んでいる。このようなバイオテクノロジーの進歩の規制的側面について論じた学術文献は豊富にあるにもかかわらず、各国で用いられている具体的な基準に関する詳細な情報は、しばしば不正確である。例えば、NBT由来の製品の規制ステータスに関するパラグアイの規制の枠組みについて、正確な基準が現在の科学文献ではまだ不明瞭で、誤った解釈のままである。このトピックに関する一般の理解を深め、新たな視点を提供するために、パラグアイのNBTを取り巻く規制を検証する。

### 規制の状況

NBTに由来する作物を監督するために、各国は多様な基準を設けている。カナダのように「新形質」の視点で規制する場合もあり、アルゼンチンが示したように、外来DNAの永続的な挿入に重点を置き、現代のバイオテクノロジー技術によって得られた作物で、遺伝物質の新たな組み合わせを持たないものは慣行作物とみなすという規制方針がある。アルゼンチンと同様のアプローチを採用している国が多く、各国の複数の規制機関が緊密に連携し、最新のバイオテクノロジーに由来する製品の規制について議論していることが重要である。

### パラグアイのNBT規制

パラグアイにおける農業バイオテクノロジーの規制制度は、1997年に農畜産省（MAG）によって施行され、NBTの場合、2019年にMAGがバイオセーフティに関するカルタヘナ議定書に概説されている遺伝子組換え作物規制の範囲に入るかどうかを評価するプロセスを実施した。この手続きは作物を慣行作

物と非慣行作物に分類するものであり、a) 遺伝子工学技術の利用、b) 識別可能な遺伝的構成体を形成する核酸配列の安定的かつ同時的な統合による遺伝物質の新たな組み合わせの創出、という 2 つの主な基準に基づいている (図)。この手続きはリスクアセスメントではなく、NBT が従来の育種方法や自然発生的なものと同様の遺伝的变化をもたらす可能性があるかどうかを調査するものである。

### 論議

世界規模での NBT 作物を取り巻く規制の状況はダイナミックであり、各国は継続的に規制政策を適応させている。NBT 作物に対する効果的な科学的根拠に基づく規制システムの開発を支援し、こうした革新的技術に対する一貫性のある包括的な監視を確保するためには、国際的な規制協調が必要であるとする強いコンセンサスがある。

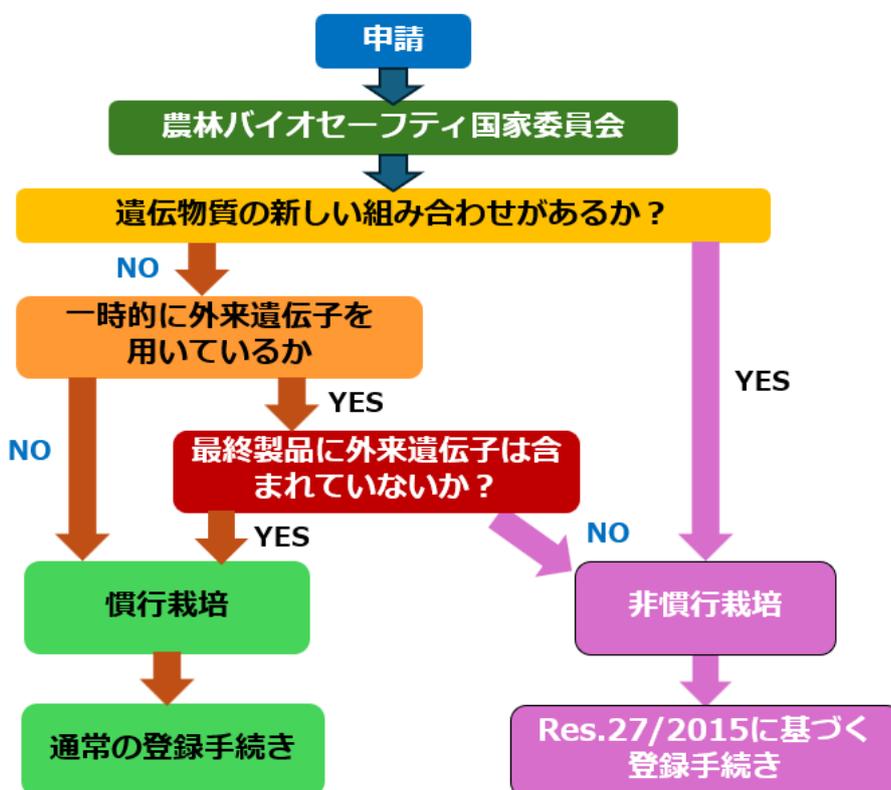


図 パラグアイにおける慣行栽培または非慣行栽培の決定スキーム

免責事項： 本図は、論文「Regulatory landscape for new breeding techniques (NBTs): insights from Paraguay」より翻訳および転載したものです。翻訳および解釈は著者自身のものであり、必ずしも原著者または出版社の見解を代表するものではありません。正確かつ詳細な情報については、原文をご参照ください。